

# NEWSつくば

N P O 法人

地域がみえる。地域がわかる。

ホーム | 行政 | 社会 | 教育 | 暮らし | 文化 | スポーツ | 科学 | コラム

NEWSつくばとは | お問い合わせ

## 畑違いの植物工場建設 へ 土浦の電気設備業が 農業参入

検索 ...

We teach  
**Japanese**  
for Foreigners

JAPAN TSUKUBA  
International Language College  
学校法人つくば文化学園  
日本つくば国際語学院



**NAC** ナック  
SPORTS CLUB

スポーツクラブ・ナック  
土浦市真鍋6丁目 26-64  
☎ 029 - 826 - 4728

つくば **山水亭**

オーケラフロンティアホテルつくば本館2階に『つくば山水キオクラ産』5月1日(火)新メニュー



街と暮らしを考える

**ISSEI 一誠商事**

JAつくば市谷田部 豊かな土壌と生産者の真心で育む安心安全

農産物直売所 **野っ食べ**



植物工場の栽培ベッドの写真を説明する植田社長<sup>㊟</sup>と工場長に就任予定の辻井康介さん = 土浦市のTEC本社

2020年1月26日

Like 50

ツイート

LINE LINEで送る

【相澤冬樹】電気設備業のつくば電気通信（TEC、土浦市東若松町、植田利収社長）が、畑違いの農業分野に参入する。全額出資の子会社、ベジタブルテック社により、完全閉鎖型の最新植物工場を那珂市に建設する。工場は4月にも着工し、来春の完成時には日量1280キロのリーフレタスを生産・出荷する計画だ。

## リーフレタスを毎日6400個

植物工場建設には事業費約13億円を投じる。すでに那珂市堤に5600平方メートルの用地を確保しており、約2000平方メートルの建屋を建設する。工場内には最大で20メートルの長さの「栽培ベッド」が横に16列、縦に8段設置される。培養液が循環し、人工照明が当てられるベッドで、レタスは種子から200グラムの大玉になるまで約40日かけて育てられる。

操業は年間365日、毎日15人程度の従業員で稼働させる。収穫などに人手が必要だが、光合成のための二酸化炭素の量やLED照明を当てる時間調整などは自動制御となる。「農家出身で農業の難しさは十分理解しているが、電気のコントロールなど技術力を武器に参入するならやっていけると思った」と植田社長。「耕作放棄地対策や食料の自給率向上など農村・農業の課題に少しずつ取り組んでいきたい」という。

同社によれば、1個200グラムの大型リーフレタスを生産する完全密閉型の植物工場としては関東初。最大日産6400個、1280キロ収穫する予定で、出荷先となる大手コンビニエンスストアなどと協議に入っている。ハウス園芸と異なり、無菌状態の環境を実現でき、季節を問わず安定供給できるのが強みということだ。



Honda Cars 茨城南



## アクセスランキング

(過去一週間)

1. つくば警察署が完成、3月2日開署 中央署...
2. 《令和楽学ラボ》5 つくば市に保育園が続...
3. 「常陽新聞がなくなり市民が失ったもの」 ...
4. 畑違いの植物工場建設へ 土浦の電気設備業...
5. 「もうかる農業」で注目 つくばのワールド...

## 市長会見

【つくば市長会見】外国人が創業しやすく 市が起業・生活をサポート

【土浦市長会見】成人式は1カ所開催 中学校区ごと方針改める

照明や空調などで消費電力がかさむため、夜間割引を活用する時間帯での稼働となるが、那珂市には立地後7年間電気料金の半額程度を交付する制度があり、コスト圧縮を図れることから進出を決めた。植田社長は「1万平方メートル規模で第2期を目論んでいるが、まずはこの工場に全力投入をし、ノウハウや経験を蓄積したうえで展開したい」と意気込んでいる。

TECは1991年設立で電気設備業を中心に業容を拡大し、ネットワークシステムや太陽光発電などから人材派遣、デジタルコンテンツの人材養成スクールなどに進出、2018年度には経産省の「地域未来牽引企業」に選定されている。ベジタブルテック社は18年の設立で、植物工場建設に向け異業種交流会などを通じ情報を収集してきた。今回は、完全閉鎖型植物工場で実績のある木田屋商店（浦安市）、工場プラントでは大気社（東京・新宿）の協力で詳細設計を詰めている。

### Related Posts:



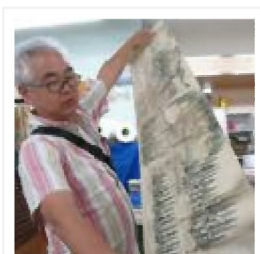
平成を貫く県「銘柄産地」指



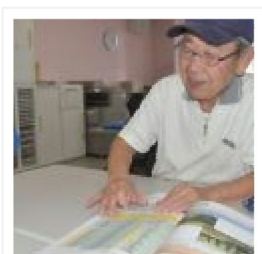
新頭取に生田雅彦副頭取が内



【レンコン歳時記】① まっす



「博物館級の珍品」天狗党絵



古写真につづる千の言葉 「つ

### 過去のニュース



2020年1月28日

NEW! 社会貢献活動で地域とつながった 筑波学院大生が成果報告

### 過去のニュース



多業種交流会「土浦駅周辺はたらくみんなのぷらっとフォーム」を紹介 県生涯学習センター

### 過去のニュース

WSつくばからのお知らせ

【土浦市長選】午後7時から開票速報お伝えします



# 那珂に「植物工場」

## つくば電気通信 来年春完成目指す

電気設備設計施工などのつくば電気通信（土浦市東若松町、植田利収社長）は屋内で野菜を生産する「植物工場」事業に参入する。植物工場は台風や猛暑といった天候の影響を受けにくく、無農薬で安定的に栽培できるのが特徴。同社は植物工場を那珂市堤へ4月に建設着工し、来年春の完成を目指す。

同所に約5600平方メートルの土地を取得し、平屋の工場（床面積約2千平方メートル）を建設する。事業費は約13億円。従業員は現地雇用を含め30人程度を見込んでい

太陽光や外気を遮断する完全人工光密閉型で、発光ダイオード（LED）の光と養液で栽培する。天候にかかわらず、質量とも安定した供給が可能で、雑菌が少ないため傷みにくい。当面は栽培技術が確立されているリーフレタスを生産し、大手食品チェーンや野菜加工業者などへの業務用販売を想定している。

種まきから収穫までは約45日。通年で稼働し、1日当たり6400株、1280キロを生産する。収穫時の大きさは1株80〜100キロが主流だが、200キロまで育てることで生産効率向上

を図る。

植田社長は農家の高齢化が進み、担い手が不足する中、「農業分野はこれから需要がどんどん増す」と見ている。ネットワーク構築などの既存事業で培ったデータ管理の技術が、LED照明や二酸化炭素濃度などの制御で生かせることから「成功事例のデータがあり、それが活用できればわれわれでも参入可能」と判断した。

4年前から具体的に検討を始め、2年前には事業主体となる農業法人で、完全子会社の「ベジタブルテック」を設立した。

栽培に当たっては、福井県小浜市などで植物工場を運営する木田屋商店（千葉県）や、栽培プラントを手掛ける空調設備の大气社（東京）からノウハウの提

供を受ける。

植田社長は今後の事業拡大を視野に「言われた通りやっけても想定と違ってしまうことは当然ある。自分たちのノウハウを確立し、第2工場、第3工場につなげていきたい」としている。

（長洲光司）